

「継子」「から」「柱」へ ～ 贈る言葉 ～

三年七組担任 松村 健太郎

成人式を迎えた裾花中学校卒業生のみなさん、ご成人おめでとうございます。時が経つ早さに驚くばかりです。新型コロナウィルスによる激動の社会の中で、想像以上の苦難を迎えていると思いますが、きっと逞しく成長されているのでしょね。

さて、皆さんは「コロナ禍でどんなことを感じ、どんなことを考えたでしょうか。私は、逆境に負けず、工夫を凝らして「コロナ」に立ち向かう人生の先輩達に勇氣と感動をもらいました。また、「鬼滅の刃」にハマりました。「コロナ」に立ち向かう人間、鬼に立ち向かう竈門炭治郎（かまどたんじろう）たち、そして、これから社会に飛び立つ皆さんには似ている部分があります。社会に出ると一人ひとり進む道が違います。一足先に社会で自分の能力を活かして人のために活躍している人生の先輩たちは、その道の「柱」です。そしてみなさん一人ひとは、自分の進む道の「継子」（ついでこ）です。それぞれに違う能力・才能があり、これから自分なりの「呼吸」を見つけていってほしいのです。たくさん経験し、尊敬する「柱」にたくさん出会い、たくさん学びましょう。そうして、ゆ〜ゆ〜は一人ひとりが「柱」になって社会を、世界を支えていってほしいと思います。

「一つだけアドバイス。』とにかく自分から動きましょう。』動く人が自分を変えることができます。炭治郎と一緒にです。自分を変えられる人は世界も変えることができます。皆さんの活躍が世界平和につながり、人類を幸せにしていってくれることが私の願いです。

最後になりますが、育ててくれた両親や周りの人に感謝する気持ちを忘れずに。二十歳という人生の節目を祝し、大いなる飛躍を期待しています。

七組（二代目松村組）の皆さん。皆さんに会えることを心の底から楽しみにしていたのですが、会うことが出来ずに悲しいです。どんな大人になっているでしょうか。私は伊那の地で三代目松村組を卒業させ、今は四代目松村組で毎日学校生活を送っています。（伊那はクラス替えありません。）今にして思えば、教員人生初めての卒業生である皆さんと過ごした当時の私は本当に未熟者であり、皆さんにはたくさん迷惑をかけました。そんな私を支えてくれた皆さんの温かさは、今でも忘れません。最高のクラスでした。共に作り上げた合唱「キミのもとへ：「青い鳥」が忘れられず、今でも生徒に聴かせます。あの合唱が私のベースであり、目標であり、あの感動を超える合唱を目指して今も歌い続けていることに幸せを感じています。

さて、皆さんに贈ってもらった結婚式のお祝い動画、今でもたまに妻と見るのです。今では共に見る家族も増え、長女（二歳）と二女（〇歳）も一緒です。二人とも父に似てとても可愛いです。皆さんに見せる機会を楽しみにしています。みんなに書いてもらった「五年後の自分へ」の手紙を渡すのも楽しみにしていたのですが、渡せず終いですね。残念です。いつか人類がコロナウィルスに打ち克った暁には、絶対に会いましょう！